



僕がさまざまな挑戦をするのは
やっぱり人と出会い、
交流するのが好きだから

井上順さん(歌手・俳優)

1947年生まれ、東京都渋谷区出身。16歳の時に「ザ・スパイダース」に加入し、数々のヒット曲を送り出す。ソロ活動を開始後も、ドラマ、歌番組、映画、ライブステージなど、幅広く活躍。



愛用する耳あな型のリオネット補聴器は、とても小さく、目立たない。

達ができるとは思っていませんでした。コロナ禍で新たな喜びと出合うための大切なコミュニケーション手段になっています。

こうして僕がさまざまな活動、挑戦をするのは、やっぱり人と出会い、交流するのが好きだから。その意味で、リオネット補聴器は欠かせないパートナーです。かつて何事にも引いてしまう自分がい

Quality of Sound, Quality of Service
リオネット補聴器

お問い合わせ

0120-2933-76

受付時間 **9:00~21:00** (年末年始を除く)

〒185-8533 東京都国分寺市東元町3-20-41

『リオネット補聴器』

新たな挑戦を支えてくれる 補聴器は欠かせないパートナー

俳優として、ミュージシャンとして、70歳を超えた今も精力的に活動する井上順さん。その日々の暮らしの原動力、また長い付き合いになる補聴器について語ってもらった。

もう一度明るさを
取り戻すことができた

さあ今日は、いくつうれしいこと、楽しいことに出合えるか……。僕は毎朝、そんなふうに思いながらベッドからぱっと起き上がります。多くの幸せと巡り合う秘訣は、何より笑顔で、たくさんの人とコミュニケーションを取ることで。でもそんな僕が、実はある時期、人を避けていました。自分が難聴だとわかったときです。

ドラマ「渡る世間は鬼ばかり」の台本の読み合わせをしていると、相手役の声がとても小さい。だから「元気をやりましょう」と声をかけました。すると、みんなが怪訝な顔をしている。ある人に「順ちゃん、耳鼻科で診てもらったら」と言われ、診察した結

果、感音難聴でした。

今から15年くらい前、やっぱりショックでしたね。それまであまり意識していなかったけど、「えっ、何」と聞き返すのが億劫になり、だんだん飲み会も遠慮するように。仕事の打ち合わせも、「後で大事なことだけ教えて」と任せがちになりました。

そんな僕が、もう一度持ち前の明るさを取り戻せたのはリオネット補聴器のおかげです。初めて着けたときのこと、今でもよく覚えています。補聴器の専門店に感動して、思わず「何でもっと早く教えてくれなかったの」と言っちゃいました(笑)。

人の声や街の音には
心をふるわせる力が

幸せなことに、その後もいろいろなお仕事をさせていた

だいています。補聴器を着けていることは、依頼の段階できちんとお話ししますし、現場でも隠すことはありません。恥ずかしがることじゃないですからね。

特に現在使用している製品はとても小型で、外から見てもほとんどわからない。最近では、NHKの大河ドラマ「いだてん」も朝ドラ「エール」も、補聴器を着けたまま出演しています。プロデューサーや演出家も「これは気づかないね」と驚いていました。

そして今年、73歳でSNSも始めました。1月に渋谷区名誉区民の称号をいただき、生まれ育った地元の魅力を紹介しようと思ったのがきっかけです。始めてみると、これが本当に面白い。毎日いろんな人がコメントをくれて、この年でこんなにたくさんの方

たことを思うと、つくづくそう感じます。

人の声、街の音というのは、私たちの心ふるわせ、活力を与える力を持っていると僕は思います。聞こえに不安がある皆さんには、ぜひ自分に適した補聴器を見つけて、新たな感動、楽しみにどんどん出合っしてほしい。先輩ユーザーとして心からそう願っています。